



太田

ユネスコ

発行日 平成27年2月26日

編集委員 若田部, 新井, 佐藤

印刷所・東京広告㈱



バーバンクに行つて
太田ユネスコ協会会長 関口 実

去る一月二十一日から二十六日までの六日間、太田市とアメリカのバーバンク市の国際姉妹都市提携三十周年を記念した太田市民団の派遣事業がありました。

私はこの姉妹都市提携に直接関わった者として、三十年後のバーバンク市の姿を見たくて、好奇心いっぱいに参加しました。参加してみても、意外にもユネスコとの深い関係を、そこかしこに感じることができました。

一月二十一日の朝、太田市のバスで成田空港に向かいました。途中バスの中で、私が参加者(二十一名)の皆様に、両市が姉妹都市提携で結ばれるまでのいきさつについて語り、一層の理解を深めていただきました。

このことは、待ち受けているバーバンク側の人たちにも殆んど知られていないことであり、現地でもお話を必要があると感じました。後日、バーバンク市民有志にパーティーを催していただいた折、直接市民六十人ほどの前でお話することができました。

さて、私たちが実践しているユネスコ活動は、「お互いが理解し合つて、平和な世界を実現しよう」とするものです。一方の国際姉妹

都市提携も「お互いが理解し合つて、平和な世界づくりに努めよう」というものです。それぞれが全く同じ方向を目指しています。

バーバンクに来て、お互い心おきなく語り合いたいと感じたとき「太田ユネスコ英語キャンプ」を思い浮かべました。何かを主張しなかったとき「高校生ユネスコ弁論大会」の意義を認識しました。

日本人の美的感覚や文化のレベルを感じとってもらいたいと思つたとき「国際交換ユネスコ児童・生徒作品展」を思い起こしました。

現在、バーバンク市の姉妹都市委員会の会長シャロン・コーエンさんは市立図書館の館長さんです。「太田市から送られてくる作品は図書館で一番目立つところに展示しますよ」と言ってくれました。

わが太田ユネスコは、着々、しっかりと歩みを進めていることを実感しました。

バーバンクへ来て三日目の晩、市民有志が歓迎パーティーを開催してくれた折、パーティーの終わりに私たちにはおなじみの手拍子「しめ」が盛大に執り行われました。日本文化の一つがバーバンクに確実に根づいているのを目のあたりにすることができました。

関東ブロックユネスコ活動研究会 in 群馬

高崎市にて開催

六年に一度廻つて来る「関東ブロックユネスコ活動研究会」(以下「関ブロ研究会」という)が、昨年十月二十五日に、高崎市に於いて開催されました。

群馬県ユネスコ連絡協議会(関口実会長)(以下「県ユ連」という)が、日本ユネスコ協会連盟とともに主催した大イベントでした。

この関ブロ研究会は、関東ブロック内(東京、埼玉、千葉、茨城、栃木、群馬の六ユネスコ協会)における各ユネスコ協会の諸活動に係る意見交換や、その発表の場として、毎年一回開催されている大事な大会となっています。

今回の大会は一日(従来は二日間の日程でゆつたりしていた)で総ての日程をこなすこととなったことから、実行委員会では、分刻みの予定表を練りあげ、実施に挑んだところで、心配もありましたが、スタッフ一同のチームプレーで、無事に幕を降すことができました。

当日は、午前八時集合、個別の打合せ会議、続いて関ブロユネスコ連絡協議会代表者会議を行い、会則確認と次期開催県の決定(栃木県となる)を行いました。愈々過密スケジュール大会へのゴーサインが下されました。

大会の幕明けは、善養寺恵介先生と上村和香さん演じる尺八と等のコラボレーションでした。ロビーでは参加者の受付が始まり、華やかな雰囲気漂っていました。

開会式では群馬県知事・高崎市長さん等の御祝辞を賜わり、大会への華を添えて戴きました。

続いて、前ユネスコ事務長の松浦晃一郎先生による基調記念講演が行われました。演題は「持続可能な社会の創造と実現」であり有意義なものでしたが、音響効果が芳しくなく、音声が十分届かないところもあり、残念で今後の課題と受けとめることになりました。

午後は四分科会に分けられた内容に、参加者全員がいづれかの分科会に参加し、十分な意見交換がなされ、成功裡に終了できました。

特に、分科会報告は、各分科会とも長時間討議の内容を適切にまとめた発表であり、本大会の締めくくりに相応しいものとなりました。

大会のフィナーレは、交流会であり、次期開催県の栃木県が心からのおもてなしを考えている旨の挨拶で大歓声となり、この大会が各ユネスコ協会の皆様から承認されたものと感謝でした。

本大会開催に当たり、日ユ協をはじめ各ユ協の皆様方の温かい御理解・御支援に心からの感謝を申しあげます。